

逸品

2023. 3. 6

長く生きていくと、ずっと欲しいのだけど、なかなか手に入れることができないものが一つや二つはある。珍しいものだから手に入らないのではない。お金を出す踏ん切りがつかないのである。

例えば仕事用の通勤カバンである。今までにどのくらい買ったろうか。けっこうな数である。気に入って買っているのではない。妥協して仕方なく買っている。春、秋、冬は同じカバンだが、夏は違うカバンにしてきた。夏はクールビズである。ネクタイもしないし、上着をまとう機会も少ない。それに合わせてややカジュアルなカバンにしている。

ずっといいカバンが欲しいと思ってきた。ふいにドラマは予想しない展開となる。高級ブランドのショップに入ることがある。本気で買う気などない。たまに、家人の目にとまり、家人を誘惑するバックに出合うことがある。そういうときは、「買ったら」と私は言う。すると、家人は熟慮の末、買うときもあれば、見送ることもある。

いつものように高級ブランドショップに入った。いつものように見るだけのつもりだった。ところが、家人がカバンを買ったらと勧めるのである。幸運はふいにやってくる。最初は遠慮していたのだけど、どうもいつもの家人と違う。チャンス到来である。そうであるならばと、本気モードに入った。なにせ人生最後の通勤カバンの購入である。散々迷うのかと思いきや、すぐに決まった。いいものはいいのである。値段も色も素材もいい。一度いいと思ったら、他の物を見ても、なかなか気は変わらない。結局、数点による激戦を勝ち抜き、最初のものが私の最後のカバンという荣誉に輝いた。

それからが大変である。一ついいものを身につけると、他の物も釣り合うようにしないとバランスがわるい。スーツ、シャツ、ネクタイ、それに靴である。仕方なく、今まで温存してきた革靴をデビューさせた。そして、車である。月に向かってきた車では合わない。ちょうどいいタイミングで車も新しくなった。この車もカバンと同様に逸品である。何かと気を使う。

カバンはいつも私に守られている。小雨が降ると、濡れないようにと、スーツの上着やコートに守られる。置き場所にも神経を使う。車はというと、駐車スペースが問題である。わざわざ混んでいない遠い場所に置くようになった。以前にも増して前の車との車間距離をとるようになった。かえって安全運転になる。いつも慎重に運転している。以前よりも疲れる。だが、嫌ではない。

計算してみた。今までに買った中途半端なカバンの値段を足してみる。新しく買った逸品のカバンが簡単に買える。こういったことはよくある。冬のコートなどもそうである。結局、損をしているような気分になってくる。逸品を大事に長く使った方がよいのだろう。しかし、私にはその決断ができなかった。

今回、ひよんなことから、カバンに靴、そして車がそろった。何だかシャキッとしてくる。それがいいのだろう。いずれもずっと大事にするつもりである。逸品とはそういうものだろう。